

就職率（平成28年度～平成30年度卒業生）

【留学生】

学部	学科	平成28年度							平成29年度							平成30年度									
		卒業生数 (人)	進学者数		就職希望者数	就職者数	その他	就職率A (%)	就職率B (%)	卒業生数 (人)	進学者数		就職希望者数	就職者数	その他	就職率A (%)	就職率B (%)	卒業生数 (人)	進学者数		就職希望者数	就職者数	その他	就職率A (%)	就職率B (%)
			大学院 (進学率)	専門学 校等							大学院 (進学率)	専門学 校等							大学院 (進学率)	専門学 校等					
工学部	機械電気工学科	7			6	6	1	85.7%	100.0%	2			2	2		100.0%	100.0%	8			8	8		100.0%	100.0%
	建築学科	3			1	1	2	33.3%	100.0%	3			1	1	2	33.3%	100.0%	2			1	1	1	50.0%	100.0%
	航空宇宙工学科									6	1(16.6%)		4	4	1	80.0%	100.0%	4			4	4		100.0%	100.0%
	情報メディア学科	8			3	3	5	37.5%	100.0%	4		1	1	1	2	25.0%	100.0%	6			4	4	2	66.6%	100.0%
工学部計		18			10	10	8	55.5%	100.0%	15	1(6.6%)	1	8	8	5	57.1%	100.0%	20			17	17	3	85.0%	100.0%
経営経済学部	経営経済学科	24	2(8.3%)		5	5	17	22.7%	100.0%	17	2(11.7%)		11	11	4	73.3%	100.0%	17	1(5.8%)		6	6	10	37.5%	100.0%
経営経済学部計		24	2(8.3%)		5	5	17	22.7%	100.0%	17	2(11.7%)		11	11	4	73.3%	100.0%	17	1(5.8%)		6	6	10	37.5%	100.0%
小計		42	2(4.7%)		15	15	25	37.5%	100.0%	32	3(9.3%)	1	19	19	9	65.5%	100.0%	37	1(2.7%)		23	23	13	63.8%	100.0%
大学院工学研究科		3			1	1	2	33.3%	100.0%	1			1	1		100.0%	100.0%	1					1		
合計		45	2(4.4%)		16	16	27	37.2%	100.0%	33	3(9.0%)	1	20	20	9	66.6%	100.0%	38	1(2.6%)		23	23	14	62.1%	100.0%

① 就職率A = (「就職者数」 + 「進学者の内就職している者」) ÷ (「卒業生」 - 「大学院研究科等進学者」 + 「進学者のうち就職している者」) ※学校基本調査卒業生就職状況調査に基づき算出

② 就職率B = 就職者数 ÷ 就職希望者数 ※文部科学省卒業生就職状況調査に基づき算出

③ その他 = 「就職準備中の者」・「(留学生)帰国」・「就職意思なし」・「起業者」

④ 就職率のパーセンテージは小数第2位切り捨て

## 留学生就職内定の事例

### ① 建築学科で学び、東京に本社がある観光業界へ

日本で地震を経験したことで、地震や災害に強い構造とリフォームに興味を持ちました。また、ゼミナールでは、世界遺産に登録されている建築家ガウディの作品についての調査をしました。

1年次には、学生生活の自立と適応のために、サークル活動に入りました。(サムルノリ部、美術部) その結果、多くの人と交流を持つことができました。2年次には、さらに広い人間関係を構築したいと考え、アルバイトを始めました。3年次には、社会経験を積むために、古民家に宿泊して、観光客の誘致を目標とした2週間、インターンシップに参加しました。

このように、日本で就職するという強い意思をもって、何をやるにも目的を明確にして参加することが重要だと思います。その結果、ホテル&リゾート業界の総合職として内定を獲得できました。

### ② 情報メディア学科で学び、メカトロ機器やホール管理用の開発・製造の大分県内企業へ

イラストを描くことが好きだったので、1・2年次はデザインコースに在籍していましたが、3年次になって、システムに興味をもつようになりました。プログラミングを学ぶうちに、好きなことより自分に適している分野としてシステム系に就職したいと考えるようになりました。ゼミナールでは、画像処理の仕組みを学び、簡単な画像処理アプリケーションを作成しました。

日本語を習得するのは大変でしたが、日本語能力試験N1に合格してからが授業の内容も理解が深まり、友達とのコミュニケーションが取れるようになり、活動範囲が広がった気がします。

### ③ 大学卒業後、日本に留学(経営経済学科2年へ編入)し、都市開発に係る企業へ

大分県留学生日本語スピーチ大会で準優勝。大分市奨学金を受け、その他にも語学教室で韓国語や英語の指導者としてアルバイトをするなど、常に、様々な国の人と話をすることを心がけました。日本語能力試験も合格するための試験勉強をするのではなく、日本で働くには、実際に使える会話能力を磨きたいと様々な国、世代、職種と交流する機会があれば参加しました。地域経済に関心を持ち、地域経済を支えている企業の形態について研究しました。

その結果、海外進出もしている住宅・都市開発グループに内定をもらいました。

### ④ 航空工学を学んで、日本の航空会社へ

将来の目標を決めて、留学先を選ぶことが大事だと思います。

航空機の信頼性や快適性を維持、向上する整備士になりたくて大学を選びました。

「整備実践」の授業を通して、理論と実践の両面から理解することができたこと、日本語能力試験1級、ビジネス日本語2級、TOEIC、運転免許などの資格に挑戦したことが成功の鍵だと思います。特に、航空会社を受験できる前提条件となっているTOEICのスコアを上げる学習は難しく、300点から685点まで獲得することができました。

日々の生活において、日本人学生との交流は重要ですが、就職活動においては、同じ国の留学生と親睦を深め、それぞれが持っている情報を共有することも大事だと思います。

週に1回は、留学生とサッカーを楽しみながらストレスを発散していました。